

演題：コンポジットレジン修復の可能性

演者名：陶山 新吾

日付：2014年3月25日

Keyword

1. MI
2. マイクロスコープ

抄録

従来の臼歯部におけるう蝕治療は、金属やセラミックなどによるインレーやクラウンなどの間接修復がほとんどである。この間接修復は、予防拡大や便宜形態の付与が必要となり、一部、健全歯質が犠牲となる。一方、健全歯質の可及的な保存が可能で、歯髄への生理的刺激を軽減できるコンポジットレジン修復は抜髄の回避と歯の喪失に至るステージを遅らせ、結果的に「歯の延命」につながると考えられる。

今回、上顎前歯部正中離開、臼歯部のⅠ級及びⅡ級窩洞に対してCR充填を行った症例を提示して、諸先生方のご意見、ご指導をお願いしたいと思います。